

『映画の音楽と12音技法 —— シェーンベルク 《映画の一場面のための伴奏音楽》から後続世代へ』

◆ 講座概要 ◆

現在のいわゆる「映画音楽」として連想されるスタイルがハリウッドで成立したのは、1930年代とされています。映画『キング・ kong』(1933)や『風とともに去りぬ』(1939)を手掛けたマックス・スタイナー(1888~1971)らが、演劇の伴奏音楽やオペラ・オペレッタなどの手法を巧みに取り入れてそのスタイルを確立しました。一方、無調音楽や12音技法などの新しい音楽語法を映画の音楽として用いる動きも見られます。この講座では特に12音技法の映画への導入に焦点を絞り、楽曲と映像作品の分析を行います。

前半では、アルノルト・シェーンベルク(1874~1951)が12音技法を用いて作曲した演奏会用音楽《映画の一場面のための伴奏音楽》(1929/30)の成立過程を分析します。後半ではハンス・アイスラー(1898~1962)を中心とした後続世代へと視点を移し、1950年代以降のハリウッドや日本での事例にも言及しながら、新たな音楽語法がさまざまな政治的・社会的 content と結びつけられていく変遷を明らかにします。商業的な側面も強い映画産業と12音技法との結びつきには、現在の視聴覚メディアに通じる多くの可能性や問題が示されています。(白井史人 記)

講師：白井史人 / *Fumito SHIRAI*

【講師 プロフィール】

1985年、新潟県新潟市生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学。現在、早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点・研究助手、東京医科歯科大学教養部非常勤講師、放送大学文京学習センター非常勤講師として研究に従事し、シェーンベルク、ハンス・アイスラーらと映画との関連を扱う博士論文を執筆している。日本学術振興会特別研究員(DC2)、ドイツ学術交流会長期奨学生(ベルリン・フンボルト大学音楽学部)、公益財団法人花王芸術・科学財団「音楽の研究」助成を経て現職。

専門は無声映画期から現在にいたる日独の映画の音楽、音楽学、表象文化論。共著『貴志康一と音楽の近代』(梶野絵奈、長木誠司、ヘルマン・ゴチェフスキ編)のほか、展覧会、シンポジウム、上映・演奏イベントなどの共同企画を多く手がける。日本音楽学会、表象文化論学会、日本独文学会、日本アルバン・ベルク協会会員。



2016. 7. 2 (土)

14:00 Start (open 13:30)

受講料 一般 1,000 円 / 学生無料

会場 BUNCADEMY

目黒区鷹番 3-1-3 リエール鷹番 303 号
(東急東横線 学芸大学駅から徒歩1分)

ご予約・お問い合わせ

info@buncademy.co.jp

若手研究者による BUNCADEMY 音楽学講座の趣旨

Buncademy では、人文科学や芸術分野の優秀な若手研究者をお招きして、彼らの専門研究についてお話を聞く、「若手研究者による音楽学講座」のシリーズ企画講座を開催しています。極めて狭き門とされる人文科学や芸術分野の研究職の道を目指して頑張っている、高い志と強い意志をもった人材を応援することは、Buncademy 設立趣旨の根幹をなしている重要な理念でもあります。人文科学や芸術分野の学者の多くは、二桁年数をひたすら研究に捧げ、その努力が実を結んで研究者としての一步を踏み出す頃は、既に若くない若手研究者となっています。しかし、その人材登用への門さえもどんどん狭くなってきており、メディアでは国立大学から文系が消えるかもしれないとの衝撃的な報道が出るなど、文系研究者をさらに絶望させてしまうような現実の状況です。これは日本だけでの話ではありません。これは、テクノロジーが純粋科学の、文明が文化の代替となってしまう時代が抱えている大きな問題であり、未来に何を繋げていくのかということから考えると、現代社会の生き死の問題にも直結しています。Buncademy は、文化と学問そして芸術が土台となる社会を指向しており、また人文科学と芸術分野で高い研究能力と専門的知識をもった人材を厚く支援します。その人材支援の小さな一步として、この「若手研究者による音楽学講座」のシリーズ企画講座を開催します。(沈 孝静 記)

若手研究者による音楽学講座：開催終了講座(*所属などはすべて講座当時のものです。)

◎ 第 1 回 1A 講座： 2014/12/21(日) / 1B 講座： 2015/01/18(日)

講師： 沈 孝静 (しむ ひよじょん)

[お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了(人文科学博士) / お茶の水女子大学みがかずば研究員]

テーマ： 1A 講座： 「モートン・フェルドマンの後期作品における記譜のイメージに関する考察」

1B 講座： 「モートン・フェルドマンの音楽作品における音楽構造と音色形成の関わりについて」

◎ 第 2 回 2015/03/21 (土)

講師： 今野 哲也 (こんの てつや)

[国立音楽大学大学院博士後期課程創作研究領域修了(音楽博士) / 国立音楽大学音楽学研究室助手]

テーマ： 「《抒情組曲》第 I 楽章における音列の再考察 —A. ベルクの手稿から読み取れるもの—」

◎ 第 3 回 2015/11/28 (土)

講師： 西田 諭子 (にしだ さとこ)

[お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了(人文科学博士) / お茶の水女子大学研究院研究員]

テーマ： 「ショパンの和声・調性書法における強調音のはたらき」

◎ 第 4 回 2016/03/21 (月・祝)

講師： 大迫 知佳子 (おおさこ ちかこ)

[お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了(人文科学博士) /

日本学術振興会特別研究員 PD (京都大学人文科学研究所)]

テーマ： 「調性とは何か? —F. -J. フェティスの和声理論に見る調性の発展史—」